

社会 類題にチャレンジ

【類題 1】

次の表は、青森県、長崎県、神奈川県、山梨県の面積、人口、農業生産額、漁業生産量を示したものです。各県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

	面積 (百km <sup>2</sup> )	人口 (万人)	農業生産額 (億円)	漁業生産量 (百t)
青森県	96	124	3222	1795
X	24	919	697	341
Y	44	81	953	10
Z	41	132	1499	3143

- ア X—長崎県 Y—神奈川県 Z—山梨県      イ X—神奈川県 Y—長崎県 Z—山梨県  
 ウ X—山梨県 Y—神奈川県 Z—長崎県      エ X—神奈川県 Y—山梨県 Z—長崎県

【類題 2】

次の表は、石川県、愛知県、広島県、山梨県の米、野菜、果実、畜産の生産額を示したものです。各県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

	米 (億円)	野菜 (億円)	果実 (億円)	畜産 (億円)
石川県	288	108	31	90
X	63	112	629	77
Y	296	1125	202	866
Z	263	234	165	474

- ア X—愛知県 Y—山梨県 Z—広島県      イ X—山梨県 Y—愛知県 Z—広島県  
 ウ X—広島県 Y—山梨県 Z—愛知県      エ X—山梨県 Y—広島県 Z—愛知県

【類題 3】

次の表は、福井県、東京都、静岡県、滋賀県の米、野菜、果実、畜産の生産額を示したものです。各都県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

	米 (億円)	野菜 (億円)	果実 (億円)	畜産 (億円)
福井県	305	87	10	46
X	1	134	33	20
Y	194	643	298	464
Z	369	114	8	112

- ア X—静岡県 Y—東京都 Z—滋賀県      イ X—滋賀県 Y—静岡県 Z—東京都  
 ウ X—東京都 Y—静岡県 Z—滋賀県      エ X—東京都 Y—滋賀県 Z—静岡県

【類題 4】

次の表は、茨城県、長野県、京都府、島根県の米、野菜、果実、畜産の生産額を示したものです。各府県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

	米 (億円)	野菜 (億円)	果実 (億円)	畜産 (億円)
茨城県	868	1708	112	1277
X	473	905	714	287
Y	174	256	18	144
Z	204	99	37	242

- ア X—島根県 Y—京都府 Z—長野県      イ X—長野県 Y—京都府 Z—島根県  
 ウ X—島根県 Y—長野県 Z—京都府      エ X—長野県 Y—島根県 Z—京都府

【類題 5】

次の表は、秋田県、新潟県、栃木県、愛媛県の米、野菜、果実、畜産の生産額を示したものです。各県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

	米 (億円)	野菜 (億円)	果実 (億円)	畜産 (億円)
秋田県	1036	308	72	359
X	1445	350	77	478
Y	714	815	80	1095
Z	168	201	530	245

- ア X—新潟県 Y—栃木県 Z—愛媛県      イ X—栃木県 Y—愛媛県 Z—新潟県  
 ウ X—新潟県 Y—愛媛県 Z—栃木県      エ X—栃木県 Y—新潟県 Z—愛媛県

【類題 6】

次の表は、山形県、宮城県、和歌山県、鹿児島県の米、野菜、果実、畜産の生産額を示したものです。各県の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

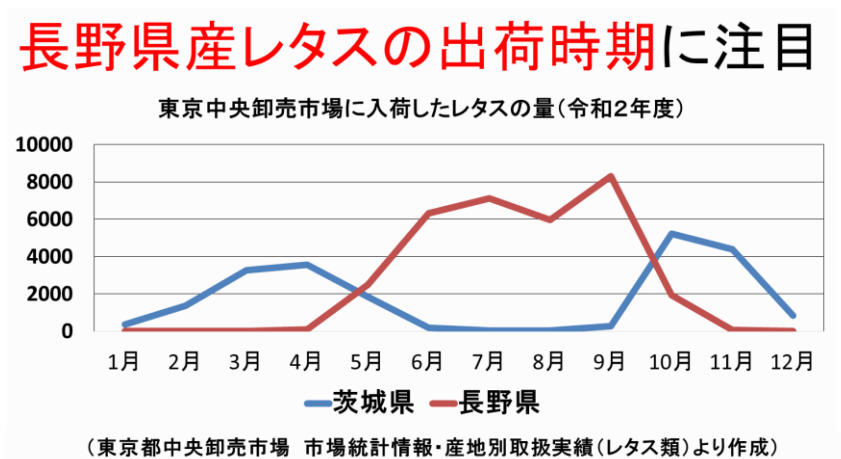
	米 (億円)	野菜 (億円)	果実 (億円)	畜産 (億円)
山形県	835	472	709	361
X	818	277	26	758
Y	75	161	748	51
Z	211	556	106	3172

- ア X—宮城県 Y—鹿児島県 Z—和歌山県      イ X—和歌山県 Y—宮城県 Z—鹿児島県  
 ウ X—宮城県 Y—和歌山県 Z—鹿児島県      エ X—和歌山県 Y—鹿児島県 Z—宮城県

【類題 7】

下のグラフは長野県産レタスの出荷時期と出荷量を表したものです。

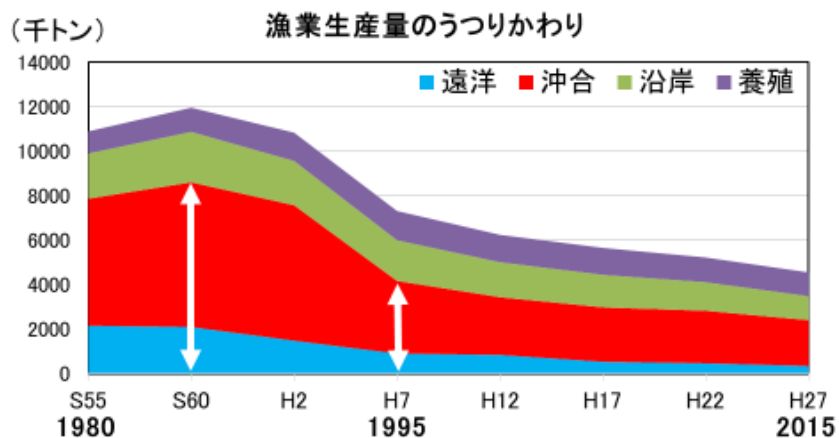
長野県のレタスの出荷が6～9月に多い理由を、栽培方法の特徴に触れながら説明しなさい。



【類題 8】

下のグラフは漁業生産量の移り変わりを表したものです。

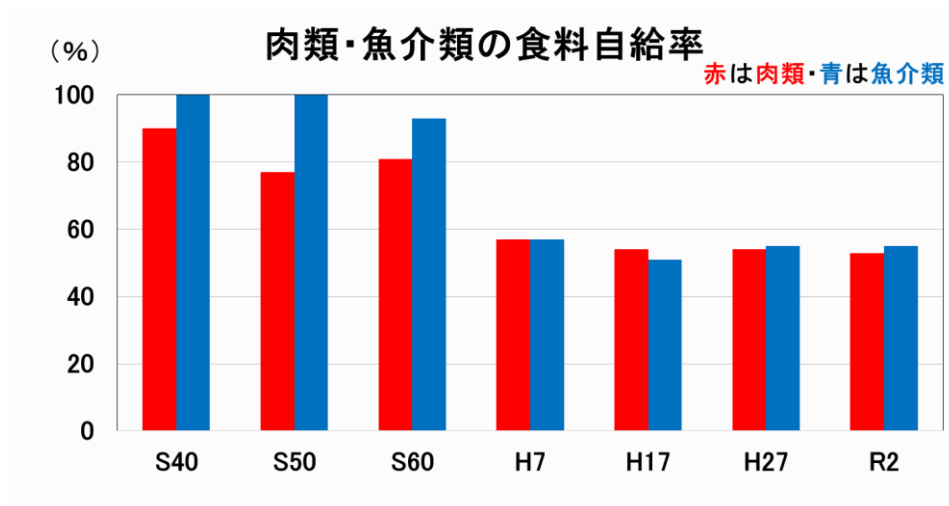
遠洋漁業が衰退していった理由を一つ挙げなさい。



【類題 9】

下のグラフは肉類・魚介類の食料自給率の移り変わりを表したものです。

H7 から肉類の自給率が低下していった理由を一つ挙げなさい。



**社会** 類題にチャレンジ

## 〔解答編〕

【類題 1】	エ
【類題 2】	イ
【類題 3】	ウ
【類題 4】	イ
【類題 5】	ア
【類題 6】	ウ
【類題 7】	例:夏でも冷涼な気候を利用した抑制栽培により、競争をさけるため。
【類題 8】	例:排他的経済水域の設定・漁船の燃料代がかさんだため。 から一つ。
【類題 9】	例:牛肉の貿易自由化・食の多様化が始まったため。 から一つ。

## 〔解説編〕

## 【類題 1】

TVでの解説をもとに問題に挑戦してみましょう。

TVであったように「数字の大きいもの」や「小さいもの」に注目してみましょう。そうするとXの県は「人口」がもっとも大きいことが分かります。919万人ということは、東京都の1300万人に近く、埼玉県の730万人を超えているので、かなりの人口密集地帯です。設問の県から選ぶと、Xは「神奈川県」となります。

今回のTVは農業に着目しているので、農業関係の数字を見ていきましょう。するとYの県は極端に「漁業生産量」が少ないことが分かります。ここから考えられるのは「海なし県」だということです。選択できる県の中に山梨県があります。Yは「山梨県」となります。

ここで解答は「エ」と判明しましたが、せっかくなのでZも確認し、今後の参考にしましょう。すでに長崎県と分かっているので、長崎県は、人口が132万人、農業も盛んですが、漁業生産も多いようです。ただし漁業は「生産量」なので、「生産額」を表している農業とそのまま対比はできません。別の資料によると漁業の生産「額」は約1000億円で、北海道に次いで日本で2番目に生産額・生産量ともに大きい県です。

## 【類題 2】

1問目よりも、農業中心の問題になります。まずはXに着目してみましょう。「米」が少なく、「果実」が多いことが分かります。設問の県から選ぶと、「山梨県」だと分かります。TVにもあったように山梨県はブドウや桃の生産が日本一の県です。

次にYに注目しましょう。「野菜」と「畜産」が多いですね。畜産から九州の県が推測されますが、選択肢の中に九州の県はありません。では野菜の生産額から「近郊農業」が盛んな「大都市圏」の県だと推測してみましょう。すると、選択肢から、名古屋大都市圏に位置する「愛知県」だと判明

しました。なお、愛知県の畜産の中心は「養鶏」で、卵の生産は全国 6 位、肉用鶏としては「名古屋コーチン」というブランド品種でも有名です。ウズラの卵は国内の 6 割を愛知県が生産しています。解答は「イ」と判明しました。では Z は広島県と分かりましたが、資料を見ると、特徴のある数字が無く広島県を導き出すのは難しいですね。出題側もすべての項目から解答できるようにすると難易度が下がってしまうため、今回の Z のような、解答しづらい選択肢もたまに出てきます。このような場合は「消去法」で選択肢を絞っていただけで良いでしょう。あえて Z が広島県だと識別するとしたら、今回の資料が「生産額」であるので、レモンなどの柑橘類の生産が多い広島県なのに、それほど盛んに見えない点に注意しましょう。畜産「額」が愛知県に次いで大きいのは、鶏卵の生産が全国 4 位だからです。ここをヒントに考えてもいいかもしれません。

### 【類題 3】

まず目につくのが、X の「米」が 1 億円、つまりほぼ米を作っていないということです。これに該当する都道府県は、沖縄県か東京都です。選択肢にあるのは東京都なので、X は「東京都」となります。

次に Z の「果実」に注目しましょう。この県もほぼ果物を生産していないのだと分かります。選択肢から Z は静岡県か滋賀県です。この二つの県のうち、果実で有名なのは静岡県です。ミカンの生産量は全国 3 位です。そうすると Z は「滋賀県」となります。というわけで解答は「ウ」となります。

静岡県は温暖な気候や変化に富んだ自然環境から数多くの「野菜」が多く生産されています。また畜産については養豚、肉牛・乳牛の飼育が多く、養鶏はそれほどではありません。漁業の数値が入ると、収穫量で全国 3 位であるため、分かりやすくなります。また工芸作物として「茶」の生産は全国 1 位です。茶やサトウキビ、綿花やいぐさなど、直接食用にしない農作物は工芸作物に分類されます。

### 【類題 4】

まず識別がしやすいのは X でしょう。「野菜」と「果実」が多く、全ての項目で Y と Z を上回っています。選択肢から該当する県を選ぶと長野県となります。野菜は高原野菜の「抑制栽培」が盛んです。果実については TV でも取り上げていたようにりんごやブドウの生産が盛んです。

Y と Z で、明確な差がある項目は「野菜」です。京都府と島根県で、どちらがより野菜を作っていないかで区別しましょう。京都府は大阪大都市圏に位置しています。それに伝統的に「京野菜」と呼ばれる野菜の生産を行ってきましたので、野菜の生産の多い Y が「京都府」だと分かります。ですから解答は「イ」となります。Z の島根県は、日本海側に面しているのでやはり米の生産に依存していると考えられることもできます。なお島根県で盛んな農業としては、園芸用の花を育てる花卉（かき）栽培が盛んなようです。

### 【類題 5】

まずは秋田県の「米」を上回る X の県の「米」に注目しましょう。東北から北陸にかけての日本海沿岸の県は米の生産が盛んなので、ここから X は「新潟県」と識別できます。

次に「果実」にかたよっている Z の県は「愛媛県」だと識別できます。瀬戸内の気候と山がちな地形のため、ミカンやキウイなどの果物栽培が盛んな県ですね。ですから解答は「ア」となります。

Yの栃木県は「野菜」と「畜産」が多いですね。野菜は「近郊農業」、畜産は那須高原の「酪農」で推測できるでしょう。乳牛の飼育頭数や、生乳の生産量は近年、北海道が1位ですが、栃木県も2位と健闘しています。これは保冷や輸送技術が未発達な時代には、大消費地である東京圏に生乳を届けるには栃木県あたりが適していたことも背景にあります。

#### 【類題 6】

まずはZの「畜産」に注目。選択肢から「鹿児島県」が導き出せます。鹿児島県は豚の飼育頭数が多く、全国1位です。また銘柄牛の生産、うなぎの養殖やかつお節の製造なども有名です。次はYの「果実」に注目しましょう。また「米」が少ないことから山がちな地形も想像されます。以上から推理するとYは「和歌山県」だと考えられます。和歌山県は山地が多く林業も盛んで、柿や梅などが1位、ミカンが2位などの果物生産が多い県です。解答は「ウ」となり、Xは「宮城県」と判明しました。宮城県は東北の県らしく、米の生産が盛んですが、意外と畜産の数字も高いです。養豚と肉用牛が中心ですが、仙台の名物、牛タン料理とはあまり関係はありません。牛タン料理は名物料理であって、名産品ではありません(銘柄牛の「仙台牛」のタンを使用する例は無く、外国産の牛タンを使用しているそうです)。このように名物と特産品が必ずしも一致しないことも注意しておきましょう。

#### 【類題 7】

入試に頻出する問題になります。グラフを見ると長野県の競合県である茨城県は、3~4月、10~11月の二回出荷時期のピークがあります。反対に長野県の出荷時期は6~9月で、その時期は茨城県の出荷がほとんどない時期になります。ここから、「①他の生産地との競争を避けるため、出荷時期をずらしている」、ということが分かります。ではどのようにして時期をずらしているのでしょうか？

TVでも述べられていたように、長野県は冷涼な気候である「中央高地の気候」に属しています。ですからレタスの出荷時期は「遅らせて」います。このように出荷時期を遅らせる農業を「抑制栽培」と言います。ここから、「②冷涼な気候を生かして、出荷時期を遅らせる」という記述内容ができあがりました。

①と②をあわせて記述内容を完成させましょう。「冷涼な気候を生かして、出荷時期を遅らせることで他の産地との競争を避け、『生産物の価値を高めている』ため。」という解答ができあがります。『 』にした文章は、そのまま「促成栽培」の記述にも応用できます。

#### 【類題 8】

日本の漁獲量の推移も、入試に頻出します。

大まかに分けると、1970年代に「遠洋漁業」が大きく減少します。これがTVでの「②燃料代の上昇」になります。1973年の石油危機により、燃料代が上昇し、利益が大幅に減少したためです。グラフ中の白い矢印は沖合漁業の変動についてのもので、記述には使用しなくて大丈夫です。1980年代から「沖合漁業」が徐々に減少していきます。これはTVでの「①排他的経済水域の設定」になります。各国が経済水域を設定した結果、ますます遠洋漁業が難しくなり、日本の経済水域内での乱獲が行われるようになりました。その結果、「③水産資源の減少」が起こり、沖合漁業も衰退していきました。

現在日本の漁業は「育てる漁業」が中心となってきています。「いけす」から出荷まで出さないの



が「養殖漁業」。ある程度生育したら「放流」して、成長したら捕獲するのが「栽培漁業」となります。

以上のように日本の漁業の変化をまとめました。今回は「遠洋漁業」について「一つ」なので、TVの①と②のどちらかを使いましょう。

①を使うと、「排他的経済水域が設定され、遠洋漁業を行うことが困難になったため。」と記述できます。②を使うと、「石油危機により燃料代が上昇したため、遠洋漁業の利益が減少したため。」と記述できます。

#### 【類題 9】

TVで述べられたように、1980年代の日米の貿易摩擦により、日本は一部の果物と牛肉の貿易自由化をはじめました。S60は昭和60年ですから、西暦に直すと1985年。H7は平成7年ですので1995年となります。ですから記述としては①「牛肉の貿易自由化が始まったため。」が適切だと考えられます。

また、平成12年まで日本人の牛肉消費量は増加を続けており、鶏肉や豚肉に関しては現在も増加傾向が続いています。そこから「食の多様化」による肉類の需要の増大で説明することもできそうです。そこで理由②「食の多様化により肉類の需要が増えたため。」も解答できると思います。